

「自己点検・評価書」・「基礎資料」正誤表

大学名：高崎健康福祉大学薬学部

■自己点検・評価書

	頁	行	誤	正
例	60	5	平成 <u>27</u> 年度には、入学者数が	平成 <u>26</u> 年度には、入学者数が
1	(注 1)	19	3 月上旬：改訂版に基づき、 <u>外部評価者を加えて自己点検・評価委員会</u> （第七回会議）の開催	3 月上旬：改訂版に基づき、自己点検・評価委員会（第七回会議）の開催
2	20	33	資料 5 p. <u>137</u>	資料 5 p. <u>138</u>
3	11	3	<u>必修科目の合計単位数は</u>	合計単位数は
4	11	6	第 2 学年 5（実質： <u>1.03</u> ）	第 2 学年 5（実質： <u>1.715</u> ）
5	11	27 表 1 (注 2)	<u>臨床系薬学実習(PHP341, 資料 5 p.240)</u>	<u>臨床医学概論(PHA342, 資料 5 p.168)</u>
6	11	29 表 1 3 年右 (注 2)		<u>臨床系薬学実習(PHP341, 資料 5 p.240)</u>
7	57	9	資料 7 p. <u>11</u>	資料 7 p. <u>12</u>
8	57	12	資料 7 p. <u>6</u>	資料 7 p. <u>16</u>
9	63	6	履修ガイドに明記されている <u>る</u> （資料 3 p. <u>16</u> ）。	履修ガイドに明記されている（資料 3 p. <u>17</u> ）。
10	69	24	<u>薬学教育研究センター</u>	<u>薬学教育研究推進センター</u>
11	72	23	<u>薬学部入学予定者全員と対象とした</u>	<u>A0 自己推薦入試・推薦入試での薬学部入学予定者を対象とした</u>
12	74	7	資料 1 p. <u>59</u>	資料 1 p. <u>80</u>
13	74	19	資料 1 p. <u>59</u>	資料 1 p. <u>80</u>
14	84	26	<u>540 ÷ 36 ≒ 15</u>	<u>540 ÷ 35 ≒ 16</u>
15	86	表 1	(平成 27 年度の研究室数) <u>17</u>	(平成 27 年度の研究室数) <u>18</u>
16	86	3	創薬科学系 <u>4</u> 研究室、生物化学系 3 研究室、薬理学系 6 研究室、医療科学系 4 研究室の計 <u>17</u> 研究室が設けられ	創薬科学系 <u>5</u> 研究室、生物化学系 3 研究室、薬理学系 6 研究室、医療科学系 4 研究室、 <u>医療社会学系 1</u> 研究室の計 <u>19</u> 研究室が設けられ

17	88	4	「高崎健康福祉大学教員選考基準 施行細則」	「高崎健康福祉大学教員採用規 程」、「高崎健康福祉大学教員資格基 準」
18	88	14	薬学部長あるいは薬学部運営協議 会（資料 249）が選考した	薬学部運営委員会（資料 249）が選 考した
19	93	8	事務職員は <u>6名</u> が配置され	事務職員は <u>4名</u> が配置され
20	97	27	共用の薬学研究実験室 I：生物薬剤 学研究室、薬効解析学研究室、分子 創剤制御学研究室の共用（192 m ² ）、 II：薬物毒性学研究室、腫瘍生物学 研究室、病態生理学研究室、免疫・ アレルギー学研究室の共用（192 m ² ）、III：生命有機化学研究室、有 機合成化学研究室、薬品物理化学研 究室、分子薬化学研究室の共用（232 m ² ）、IV：遺伝子機能制御学研究室、 衛生化学研究室、細胞生理化学研究 室、分子生体制御研究室の共用（232 m ² ）、	共用の薬学研究実験室 I：生物薬剤 学研究室、薬効解析学研究室、分子 創剤制御学研究室、 <u>地域医療薬学研 究室</u> の共用（192 m ² ）、II：薬物毒 性学研究室、腫瘍生物学研究室、病 態生理学研究室、免疫・アレルギー 学研究室の共用（192 m ² ）、III：生 命有機化学研究室、有機合成化学研 究室、薬品物理化学研究室、分子薬 化学研究室、 <u>分子設計化学研究室</u> の 共用（232 m ² ）、IV：遺伝子機能制 御学研究室、衛生化学研究室、細胞 生理化学研究室、分子生体制御研究 室の共用（232 m ² ）

(注 1)表紙から数えて 6 ページ目 「自己点検・評価書」作成のプロセス【自己点検・評価
書作成の経緯】

(注 2)p.11

3-1 表1 ヒューマニズム教育と医療倫理教育に関連した主な授業科目

授業科目名	
学年	医療全般を概観し、薬剤師 としての倫理観、使命感、職業 観を醸成する教育
	医療人として、患者や医療提供者の心理、立 場、環境を理解し、相互の信頼関係を構築する ために必要な教育
1	基礎教養ゼミ(SGD 含む)(LAB001, 資料5 p.1) 薬学総論 I(SGD・早期体験学習含む)(LSP007, 資料5 p.69) 生涯健康論(LAB007, 資料5 p.8)
	倫理学 (LAH002,資料5 p.18)
	心理学 (LAH003,資料5 p.19) チーム医療アプローチ論(LAH011,資料5 p.28)

2	薬学総論 II (PBL・SGD) (LSP008, 資料5 p.71)	
		臨床心理学(LSP001, 資料5 p.57) 臨床医学概論(PHA342, 資料5 p.168)
3		臨床系薬学実習(PHP341, 資料5 p.240)
4	医療福祉学(PHA384, 資料5 p.204) 育薬倫理学(PHA383, 資料5 p.196)	
4	実務事前学習 I (ロールプレイ学習・PBL・SGD 含む)(PHA392,資料5 p.207)	
4	実務事前学習 II (ロールプレイ学習・PBL・SGD 含む)(PHA393, 資料5 p.210)	
5	実務実習(PHP392,資料5 p.248)	
	疾病論(PHA346,資料5 p.183)	
6	疾病論(PHA346,資料5 p.183)	

■基礎資料

	資料番号	頁	箇所	誤	正
例	1-7	10	(1)表 3行2列目	20	18
1	3-1	14	【自己学習・生涯学習】 1) 医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。(知識・技能・態度) 1年	(空欄)	<u>基礎教養ゼミ、薬学総論 I</u>
2	3-1	14	【自己学習・生涯学習】 1) 医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。(知識・技能・態度) 3年	<u>製剤学実習</u>	(空欄)
3	3-1	14	【自己学習・生涯学習】 2) 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度) 1年	(空欄)	<u>基礎教養ゼミ、薬学総論 I</u>
4	11	161	(基礎資料 11) 訂正版[平成 29 年 11 月 7 日提出]		赤字部分
5	12-2	163	(基礎資料 12-2) 訂正版[平成 29 年 11 月 7 日提出]		赤字部分

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況および研究室の広さ

6年生の在籍学生数	70 名
5年生の在籍学生数	85 名

	配属講座など	指導教員数	6年生 配属学生数	5年生 配属学生数	合計	卒業研究を実施する 研究室の面積 (m ²) ※
1	生物薬剤学	2	2	3	7	24
2	薬効解析学	2	5	6	13	24
3	分子創剤制御学	2	0	0	2	35
4	地域医療薬学	3	4	5	12	20
5	薬物毒性学	2	5	6	13	24
6	腫瘍生物学	2	4	6	12	24
7	病態生理学	2	5	5	12	24
8	免疫・アレルギー学	1	3	4	8	20
9	生命有機化学	1	2	2	5	20
10	有機合成化学	2	6	8	16	24
11	薬品物理化学	2	4	6	12	24
12	分子薬化学	2	4	4	10	20
13	分子設計化学	1	1	1	3	24
14	遺伝子機能制御学	3	5	8	16	24
15	衛生化学	1	3	5	9	24
16	細胞生理化学	3	5	4	12	24
17	分子生体制御学	3	7	8	18	24
18	薬剤疫学	3	5	4	12	20
19	医療経済学	1	0	0	1	26.4
	合 計	38	70	85	193	

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

※ここでの研究室とは教員の居室のことであり、実験は共用実験室で行っている。

薬学研究実験室Ⅰ (192 m ²)	生物薬剤学研究室、薬効解析学研究室、分子創剤制御学研究室、地域医療薬学研究室
薬学研究実験室Ⅱ (192 m ²)	薬物毒性学研究室、腫瘍生物学研究室、病態生理学研究室、免疫・アレルギー学研究室
薬学研究実験室Ⅲ (232 m ²)	生命有機化学研究室、有機合成化学研究室、薬品物理化学研究室、分子薬化学研究室、分子設計化学研究室
薬学研究実験室Ⅳ (232 m ²)	遺伝子機能制御学研究室、衛生化学研究室、細胞生理化学研究室、分子生体制御研究室

(基礎資料12-2) 卒業研究などに使用する施設

表 1. 講座・研究室の施設

施設名 ¹⁾	面積 ²⁾	収容人員 ³⁾	室数 ⁴⁾	備 考
学部長室	35m ²	5	1	学部長室
教員個室(大) ²⁾	24m ²	5	12	教員個室(教授)
教員個室(小) ²⁾	20m ²	5	6	教員個室(准教授、講師)
教員個室(大) ²⁾	26.4m ²	5	12	教員個室(教授)
セミナー室	24m ²	13人	7	2階に3室、3階に2室、4階に2室、(すべて共用)
共通機器室	96	10人	2	2階に1室、3階に1室
薬学研究実験室 I	192m ²	50人	1	2階に1室(複数研究室で共用、基礎資料11参照)
薬学研究実験室 II	192m ²	50人	1	2階に1室(複数研究室で共用、基礎資料11参照)
薬学研究実験室 III	232m ²	50人	1	3階に1室(複数研究室で共用、基礎資料11参照)
薬学研究実験室 IV	232m ²	50人	1	3階に1室(複数研究室で共用、基礎資料11参照)

- 1) 講座・研究室が占有する施設(隣接する2~3講座で共用する施設を含む)を記載してください。
実験室・研究室に広さが異なるものがある場合は、「大・小」、「大・中・小」のように大まかに区分してください。
- 2) 同じ区分の部屋で面積に若干の違いがある場合、面積には平均値をご記入ください。
- 3) 1室当たりの収容人数をご記入ください。同じ区分の部屋で若干の違いがある場合は平均値をご記入ください。
- 4) 薬学科の卒業研究を担当する講座・研究室が占有する部屋の合計数をご記入ください。(ひとつの講座・研究室当たりの数ではありません。)

表 2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 ¹⁾	室数	施設の内容
大型測定器室	4	NMR測定室、LCMS測定室、暗室(共焦点レーザー顕微鏡)、TDM室(質量分析器)
実験動物施設	1	一般飼育室(5室)、特殊動物(感染、無菌、遺伝子組換え)飼育室(一般飼育室内に4室)
RI実験施設	0	
その他の施設 ²⁾		

- 1) 大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を列記してください。(面積などは不要です)